

○学内からの視点

1. プログラムの履修・修得状況

本学において、「数理・データサイエンス・AI教育プログラム」は、2023年度より開設、既存の科目である「情報リテラシー」「統計学入門」を本教育プログラムの対象科目とすることにより、2023年度入学生から履修することのできるプログラムとなっている。

2023年度の本プログラム対象学生の内、「情報リテラシー」を受講した人数は559名、「統計学入門」を受講した人数は186名となっており、全学部必修科目「情報リテラシー」に比べ、「統計学入門」の履修者数が少ない現状がある。

今後は、プログラム履修の意義も含め、学生への周知を強化していく必要がある。

2. 学修成果

本プログラムを構成する「情報リテラシー」「統計学入門」の2科目どちらについても、LMS（学習管理システム）への課題提出が毎回あり、その取り組み状況や授業内容の理解度をこまめに把握できるようになっている。学生アシスタントへも、どのような質問があったか、受講生はどのようなことで困っていたかなどの聞き取りを毎回行い、学生の理解度を確認している。さらに、成績評価や学期末に行われる授業評価アンケートを分析することにより、受講生の達成度や学修成果を確認することができる。授業評価アンケートの分析結果については、FD委員会と共有し、問題点があれば次年度以降の改善を検討している。

令和5度の「情報リテラシー」および「統計学入門」については、「この授業を受けて新しいものの見方や考え方を得られたと思いますか」という項目において、5段階評価での平均がともに4.6であり、多くの受講生が論理的または統計学的なものを見方を獲得できたことが推測される。また、「あなたはこの授業の履修（授業そのもの、予習、復習）に意欲的に取り組んだと思いますか」についてもともに4.5以上であったことから多くの受講生が意欲的に取り組んだことがわかり、学修成果が大きいことが期待できる。

令和6年度開始の副専攻「AI・データサイエンス」（経営学部では数理・データサイエンス・AI教育プログラムの応用基礎レベル申請予定）について、「統計学入門」の講義内で案内した際に興味を示した学生が多かったことから、この分野に関心を寄せるようになった学生がいることが伺える。このコース（プログラム）には現在までで26名の学生が申し込んでいる。

3. 学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度

本学では、教育の内容や方法を改善・向上させ、自己点検や評価を行うために全学部にFD委員会がおかれている。FD委員会では、本プログラム構成科目を含む全科目を対象に、毎学期末に対面での授業アンケートを実施している。そして、その結果を分析することにより、全学部の学生の理解度の把握をおこなっている。

令和5度の「情報リテラシー」および「統計学入門」については、「授業内容はわかりやすかったと思いますか」という項目では、5段階評価で平均がともに4.5以上であり、多くの受講生にとってわかりやすい授業内容であったことから、理解度も高いことが推測される。特に、「統計学入門」については「授業の速さや進め方は適切だったと思いますか」が

4.6であったことから、授業の進め方や教え方はおおむね適切であったと判断され、多くの受講生が授業内容に理解が追いついていることが推測される。

4. 学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度

毎学期末に実施する授業評価アンケートを通して、後輩等他の学生への推奨度について推測し、確認している。本プログラムを構成する「情報リテラシー」「統計学入門」は、ともに満足度が高く、新しいものの見方や考え方を得られたという実感のある受講生が多いことが確認できる。自由記述欄へのコメントからも多くの学生が楽しんで受講し、講義内容にも満足していると考えられ、後輩等他の学生へも受講を推奨すると評価している受講生が多いことが推測される。

5. 全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況

令和5度については、本プログラムの対象学生（全学部の1年生）559人のうち、リテラシーレベルを修了した学生が169人なので、修了率は約30.2%であった。これを上げるために今後も積極的な取り組みを行っていく。

本プログラムを構成している「情報リテラシー」は全学部で必修であり、1年次の前期において自動履修登録されている。この科目については再履修クラスについても自動登録されるようにして、履修登録のし忘れを防いでいる。また、選択科目の「統計学入門」についても、入学時オリエンテーション、他の必修講義内、在校生オリエンテーション、教務からの一斉配信メールなどで履修を促す等、履修率向上に向けての計画が立てられている。

○学外からの視点

1. 数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること

授業において、学生にとってなるべく身近なデータサイエンス活用事例を扱うようにしている。それにより、数理・データサイエンス・AIは机上の学問ではなく実学であるという認識をもつようになることが期待できる。また、座学に偏ることなく、コンピュータを使った実習等も適宜取り入れている。実際に手を動かし、計算結果、分析結果を得ることにより、新しい発見があることや先を予測することなどの楽しさを体験できるような授業内容にしている。このような実習を通じて、数理・データサイエンス・AIが広く社会に求められているということを実感し、これを学ぶ意義がわかるような授業を計画している。

2. 内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること

授業において「分かりやすい」かを、こまめに確認するために、毎回の提出課題の出来具合の把握や、受講生への理解度についての聞き取り等を行っている。もし「分かりやすさ」に問題があれば、担当教員間で共有し、改善する体制が整っている。また、学生アシスタントからも随時聞き取りを行い、理解度に問題のありそうな学生を把握し、授業外においてもLMSのチャット機能などを使って個別にフォローしている。講義全体の内容・水準を落とすことなく、かつ、習得率を上げるために、個別対応にも力を入れている。また、学期末に実施される授業評価アンケートの「授業内容は分かりやすかったと思いますか」という項目についてチェックを行い、問題があれば担当教員間で共有のうえ、次年度の授業内容や方法の改善に役立てる体制になっている。